

園行事+体験活動参加型(幼稚園)

園名	多治見市立平和中学校
実施日時	令和5年7月13日(木)
会場	多治見市立平和中学校
参加人数	約370人
学習課題(分野)	いのちの授業(命の大切さ)
運営者の願い	「いのちの授業」 ～皆さんはお子さんと「性」について会話をしたことがありますか?またはできますか?～ 家庭では伝えづらいテーマを現役助産師の方から学びます。子どもたちがかけがえのない「いのち」と向き合えるすばらしい機会です。

学習の内容

< 取組の経緯 >

多治見市では、多くの中学校で「いのちの授業」が行われています。平和中学校でも、ぜひこの授業を子どもたちに受けさせたいという保護者の願いもあり企画、運営されました。いのち、性の問題は繊細な面もありますので、開催までにしっかりと打合せを行いました。事前に保護者からのメッセージも依頼しました。

< 当日の動き >

全校生徒が、「いのちの授業～伝えたい命の話～ 生まれてきてくれてありがとう」を受けました。1、2年生は、体育館で、3年生は教室で授業を受けました。保護者は、別室にてリモートでその様子を見守りました。



(体育館で授業を受ける1、2年生) (教室で授業を受ける3年生)

< 3年生の授業内容の一部紹介 >

・誕生は奇跡の出会いから

卵子の命は24時間、精子は約3億個の中の一つ

・DVD 出産に臨む家族、助産師の記録

生まれたときは、ふわーっとみんなが喜びに包まれるのです。お母さん、お父さん、親戚の人、そしてわたしたち助産師もみんな喜びに包まれます。

< 保護者からのメッセージ >

生まれてきてくれて本当にありがとう。あなたがいるだけで、お母さんの人生は毎日楽しく忙しく心配もありますが、たくさんの幸せをもらっています。元気で明るく良い子に成長してくれてありがとう。これから先も見守らせてください。

< 生徒の感想 >

私がこれから夢を叶えて幸せな人生を送っていくために、誤った道に進まないよう正しい知識とすべき行動を教えてもらった。講師の先生が真剣にわかりやすく話してくれたので、こっちは真剣に話を聞くことができたし、幸せに生きていくための術を受け取った。(中学3年生)



命の大切さ

令和5年度の県政モニターアンケートの結果から、家庭教育学級のテーマにしてほしい項目の一番が、「命の大切さ」だった。その大切なテーマに正面から取り組んでいる家庭教育学級だった。授業を受けた生徒が、自分が生きていることの尊さにふれ、親子で「命について」考えることのできる取組になっていた。



真剣に学ぶ環境づくり

講師の先生の体験に基づいた事実の提示と真剣な語りから、集中した学習が展開されていた。望まない妊娠、性感染症から身を守ることの大切さなど、これから生きる子どもたちに必須の知識や考え方を伝えてもらえた。受け止める生徒も、自分の生き方と重ね合わせて、真剣に受け止めることができていた。生徒、先生、保護者がお互い信頼し、大切な学習内容だと理解しているからこそ生まれた真剣に学ぶ環境があった。